

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902104		
法人名	日総ふれあいケアサービス 株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 花みずき 1階		
所在地	旭川市神居7条18丁目377番地		
自己評価作成日	平成29年10月31日	評価結果市町村受理日	平成29年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022.kani=true&JigyosyoCd=0192902104-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周りは、四季を感じられる風景を楽しむことができ、お天気の良い日は、玄関前にあるベンチで外気浴を行うことで、利用者の方々が気分転換が図れている様子が表情に表れ、職員は嬉しさを感じています。地域の方の意欲的な協力もあるため、地域の交流にも力を入れ、ホーム内で、地域の子供達とマジックショーを楽しんだりホームまで提灯行列で「ろうそく出せ〜♪」と歌を聞かせていただいたりして、利用者の方々も懐かしそうにしていました。週に1回来訪で、地域のボランティアの方による体操にも、利用者の方々は意欲的に参加されており、日常動作も低下なく過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR旭川駅からバスで15分程の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。隣に市民向けのスキー場があり、自然環境に恵まれている。建物は元のユースホステルを改築したもので、共用空間、居室ともに広く、窓も多く明るい。各ユニットにトイレが4か所あり、洗面台やエレベーターも整っている。共用空間の飾りつけや居室の家具、調度品など、親しみやすい空間づくりが行われている。長く勤める職員が多く、利用者との信頼関係が良好で、利用者が安心して過ごすことができる。共用空間が広いため、利用者が思い思いの場所で自分のペースで生活できている。馴染みの美容室に通う方や、近所のタバコ店から漫画やタバコが直接届けられる方がいるなど、過去の習慣も継続できている。地域との関係は、子供たちが事業所でのマジックショーや町内の提灯行列の際に事業所を訪れたり、毎週、体操指導のボランティアの来訪を受けるなど、活発である。家族には、利用者ごとに受診状況や日々の様子を詳しく記した「個別報告書」を送付し、情報提供を行っている。ケアマネジメントの面では、フェイスシートなど既存のシートの他に、計画更新時に心身の情報シート、アセスメントシートを作成している。職員育成については、法人のバックアップのもと、段階別の研修体制やマニュアル類が整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型を取り入れた理念に基づき、地域との交流にも力を入れています。毎年、各フロア一理念も職員間で共有し努めています。	基本理念とユニット毎のフロア理念があり、基本理念として「なじみの地域で想いのままの暮らしを大切にすると掲げている。理念を事務所や共用部分に掲示し、会議で内容を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内清掃や夏まつりなどの参加をさせていただいています。また子供達との交流の場も地域の方と話し合い、実践につなげています。	利用者が日常的に住民と挨拶を交わしたり、町内清掃に参加する方もいる。子供たちが事業所でのマジックショーや町内の提灯行列の際に事業所を訪れている。毎週、体操指導のボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、地域の方や、包括支援センターの職員の方と、認知症に対する理解が得られるよう、認知症の勉強会を開催しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センターの職員、町内の役員の方、ご家族様が参加され、日々の活動報告や、地域での活動など意見交換をしています。また、町内の方にも、避難訓練に参加していただき、意見など伺っています。	会議を2か月毎に開催し、地域包括支援センター、2つの町内会の役員、家族代表、利用者の参加を得ている。防災や事故、虐待防止などを取り上げているが、最近は活動報告が中心となっている。議事録を家族に送付している。	活動報告の他に幅広く会議のテーマを設定し、情報交換や意見交換を行うことと、テーマに関する話し合いについても議事録に盛り込むことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市へは、ホーム内での事故があった時の報告と、介護保険に関する相談をさせていただいています。包括支援センターの研修や、地域ケア会議に参加しています。	運営推進会議や旭川地域のグループホームの勉強会、地域のケア会議の際に地域包括支援センター職員と情報交換を行っている。市には必要に応じて相談を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、1ヶ月に1回のミーティング時に話し合いを行い、研修にも参加することで、職員の認識を深めながら、身体拘束が無いよう努めています。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる行為を記したマニュアルを用意し、年2回程勉強会を行っている。玄関は日中施錠せず、利用者の出入りがあれば戸の鈴の音や玄関のセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加することで、日頃の自分の介護の仕方を振り返ることができ、防止につなげるよう、職員から、多くの意見も聞かれ、職員同士が注意し合える雰囲気作りにも、努めています。		

ふれあいの里 グループホーム 花みずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に生活保護などを受給されている方などの家族については、制度を説明する事で、金銭管理などに役立ててもらえるように情報提供に努めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容を十分に説明し、契約後も不明な点があれば、気がねなく聞けるような環境に努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気兼ねなく、意見がいただけるよう、意見箱の設置をしています。	家族の来訪時や介護計画を説明する際に家族や利用者の意見を聞き「連絡ノート」や「支援相談経過記録」に記録し、職員間で共有している。利用者ごとに受診状況や日々の様子を記した「個別報告書」を作成し、家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時間や、時間外、ミーティング等の際にも、意見を聞く機会を設け、話やすい雰囲気にも努めています。	月1回、ユニットごとにミーティング、カンファレンスを行い、どの職員からも意見を引き出すようにしている。職員は管理者にいつでも相談でき、年1~2回はエリアマネージャーとも面談している。行事や環境整備、備品発注などを職員が分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状態の希望を聞き入れ、勤務表の作成、休憩もゆっくりと取れるよう、環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の研修には、勤務の不安なく参加でき、法人内でも、経験におおじた研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社内で、管理者が集まっての勉強会や、地域ケア推進会議、地域包括主催のグループホームの集まりなどの交流にも参加し、力を入れ取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前より、信頼関係が築けるよう努め、ご家族様や利用者の方が入居に際し、不安のないように何度もお会いしお話ししたり、ホームの様子を見に来て頂いたり、ご自宅へ訪問をし、お話しをさせていただいたりしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にケアマネージャーより情報をいただき面接を行ったり、ホームを見学していただいたりと、入居前のご家族様や利用者様の不安を少しでも取りのぞけるように、配慮をしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族様のお話を伺った上で、早急な対応が必要なケースなどを見極め、必要な訪問歯科や訪問理美容へのサービスへもつなげています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事、出来ない事の見極めを職員間でも情報交換をするようにし、その上で、利用者様の出来る範囲で、お手伝いをお願いし、「してみたい」との希望時も安全確認をしチャレンジしていただいています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、個別の報告書を郵送し、近況を報告することで、ケアプランだけではなく、日常的な事でもアドバイスが頂けるように努めております。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者には、必ずお名前を書いて頂き、後日、ご家族様へお伝えしています。また、帰宅の際には、ご本人様とお見送りをさせて頂き、また、いらして頂けるよう、声かけし、お手紙や電話などのやりとりもしています。		3～4名の利用者に友人が来訪し、友人と教会や外食などに出かけることもある。馴染みの美容室に通う方や、近所のタバコ店から漫画やタバコが直接届けられる方もいる。ドライブで利用者が通った小学校を見に行ったことがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや、お手伝いなどの共同作業により、多くの会話が保てるよう配慮に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への移動や転居時にも、必要な情報を提供し、利用者様が、新しい所に移られても、これまで通りに過ごしていただけるようにと考え、ご家族へ連絡しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活状況や、趣味嗜好を、利用者様、ご家族様より伺い、利用者様の意向に沿った生活をしていただけるように、利用者様本位の検討を常に行うようにしています。	言葉で希望を表出できる方は4割ほどで、その他の方も過去の関わり合いの中から把握できている。既存のシートの他、計画更新時に心身の情報シート、アセスメントシートを作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネジャーより、利用者様の情報をいただき、職員間、情報を共有しながら支援できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に、毎日の様子を記入把握し、個々の利用者様にあった生活が送れるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで話し合い、各職員に必要なと思われるアイデアをだしてもらい、介護計画作成に役立てています。	介護計画を6か月～1年の期間で更新している。3か月毎にモニタリングシートを作成し、カンファレンスで意見集約している。日々の記録は目標項目の番号を記載し、気づきや変化の記載には下線を引いて分かりやすくしているユニットもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や変化があれば、必ず記録に残し、特別な変化や、大切な内容の記録は、ペンの色を変えて下線を引き、各職員がわかりやすいよう工夫をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や、外泊の希望があれば、すぐにお受けし、家族団らんを楽しんでいただく事で気分転換が図れるよう対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居された後も、なじみの関係が保てるよう、地域ボランティアの方との交流にも努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医との関係を大切にしており、入居後も、かかりつけ医を主治医にされ、定期的に受診をしています。	利用者のうち4名の方は月1～2回の往診を受け、協力医への通院は事業所に対応し、その他の通院は家族または事業所で同行している。受診内容を「支援相談経過記録」に記載し、共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の様子に注意、観察し体調の変化時は、看護師へ連絡、相談をできる様にしております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報は、医療機関へ情報提供し、病院関係者とも連絡や、相談しやすい関係に努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意図確認書を作成しており、事業所で出来る内容などについて説明をしております	利用開始時に「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明し、同意書を得ている。過去2年ほどの間に2名の看取りを経験し、今後も医療機関や家族と連携を取りながら利用者の希望に沿った対応を行う方針としている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命救急の訓練、研修に参加し、緊急時の対応手順を把握し、連絡手順も整っています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災訓練を行い、日中や夜間想定で行っています。地域の方の協力もあり、毎回参加し意見をいただいています。	年2回、消防や地域の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を実施している。一方、職員の救急救命訓練は受講後の期間が空いている職員もいる。災害時に必要な水や食料などの備蓄品を準備している。	全職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。また、法人の防災マニュアルや消防の資料等を参考に、地震等火災以外の対応方法についても職員間で定期的に確認することを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、1人1人の思いや、尊厳を大切に声をかけ対応をさせていただいています。	法人で新人に接遇マナー研修を実施している。呼びかけは「さん」づけとし、不適切な言葉かけがあれば個別に注意している。記録類は事務所で保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつも、利用者様の思いを1番に考え、自己決定できるよう促しに気をつけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日に暮らしの中で利用者様の思いや意思を大切にし、実現できるよう努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服えらび、お化粧をされる方は髪を整えたり、身だしなみに気をつけながら支援をさせていただいています。			

ふれあいの里 グループホーム 花みずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者様にあわせ、お粥やペースト状の食事、食べやすい大きさにカットするなど工夫をし、夕食の準備や、盛り付け、食器拭きなどお手伝いしていただいています。	利用者の希望を聞いて献立を変更し、サンドイッチなどを作っている。食事介助が多くなり、職員も一緒に食事することは少ないが、焼きそばパーティーなどを行事に取り入れながら一緒に食事を楽しむようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成する献立で、毎日、バランス良く食べていただき、1日の水分量も利用者様個々に把握し、脱水予防に努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前の口腔ケアを行い、週に1回、訪問歯科より往診も行っていきます。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄が維持していけるよう、個々にあった、排泄誘導時間を決めています。	周りに配慮しながら小声で声かけをし、日中は二人介助での対応も行いながらトイレでの排泄を支援している。夜間は、身体状況に応じてベッド上でのパッドやおむつ交換で対応することもある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、利用者様の排便排泄状況を把握し、午前中のおやつに乳製品や甘めの飲み物に工夫を行いながら、歩行運動も促しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴した日の記録を参考に、入浴の声かけを行い、利用者様からの希望も受けて対応をしています。	毎日入浴が可能で、午後の時間帯を中心に週2回の入浴を支援している。同性介助や二人介助など、希望や状況に応じて柔軟に対応している。湯加減に配慮し、好きなシャンプーなどを準備して入浴が楽しめるように工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや、居室で落ち着ける場所をつくり、どこでも安心して過ごせるよう会話に気を配りながら、支援をしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や飲み忘れがないよう、必ず職員2人で確認をし、服用介助を行い、薬の内容の用紙も、いつでも見やすいよう準備をしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お天気の良い日は、外気浴の時間を大切に、好まれるレクリエーションに参加していただきながら、気分転換に努めています。			

ふれあいの里 グループホーム 花みずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は、できるだけ利用者様全員、外気浴をして気分転換していただいています。また希望にそって散歩にも努めています。ご家族様との外出も自由に行っています。	身体状況に応じて、玄関先のベンチで外気浴をしたり近隣を散歩している。散歩の途中で近くの食堂でラーメンを食べたり、車でドラッグストアなどに買い物に出かけるなど、希望に応じて可能な限り個別の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご家族様で行っており、利用者様の必要な買い物は、会社立て替えて買い物をしていきます。共に買い物へ出かけたり、職員、ご家族様が、代わりに買い物をしてきています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は、ホームの電話を使用いただいています。ご本人用の携帯を持たれている方もいます。手紙のやり取りも、ご本人の写真を添えて、お手紙を書いていただく支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が、快適な空間で過ごせれるよう、特に室温には、気をつけており、夏の暑い日は、居室内扇風機使用し、かき氷を楽しむ工夫もしています。冬は、常にヒーターの温度に注意をし、濡れタオルで加湿の調節も行っています。	浴室やトイレを中心にした回廊式で、居間や食堂は出窓に面した明るく開放感のある造りになっている。ソファやテーブルの配置を工夫しながら、各利用者が好きな場所でゆっくり過ごせるように環境を整えている。季節を感じる紅葉の装飾を施し、壁には行事や利用者の普段の姿の写真、ぬり絵などの作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置や、各自の椅子の配置を、利用者様の状況に合わせ、調整を行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、自宅で使用されていた家具を持ってきていただき、利用者様が使い慣れたもので、安心して過ごせれるよう工夫をしています。	クローゼットが備え付けられた広々とした居室で、ソファやテーブルなどを配置して使いやすいように工夫している。使い慣れたタンスやラジオ、好きな本を持ち込んだり、家族の写真や職員からの誕生日カード、賞状なども飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの利用者様のできる事を確認し、自立した生活が送れるよう、家具の位置にも工夫をしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902104		
法人名	日総ふれあいケアサービス 株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 花みずき 2階		
所在地	旭川市神居7条18丁目377番地		
自己評価作成日	平成29年10月31日	評価結果市町村受理日	平成29年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0192902104-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周りは、四季を感じられる風景を楽しむことができ、お天気の良い日は、玄関前にあるベンチで外気浴を行うことで、利用者の方々が気分転換が図れている様子が表情に表れ、職員は嬉しさを感じています。地域の方の意欲的な協力もあるため、地域の交流にも力を入れ、ホーム内で、地域の子供達とマジックショーを楽しんだりホームまで提灯行列で「ろうそく出せ〜♪」と歌を聞かせていただいたりして、利用者の方々も懐かしそうにしていました。週に1回来訪で、地域のボランティアの方による体操にも、利用者の方々は意欲的に参加されており、日常動作も低下なく過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2階ユニットでは、理念の達成にむけ、その時の利用者様に合わせた内容で、かつ、介護職員の意見が反映された、フロア独自の目標を作成し、実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの避難訓練に町内の方に参加して頂いています。地域の行事は、回覧板でのお知らせや、運営推進会議内で町内会と情報共有させて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でホームの取り組みや現状をお伝えしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の方や利用者のご家族様、地域包括支援センターの方から意見や助言をもらい、サービス向上に繋げるよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の担当者や、介護保険更新時に携わっている方々に、ホームでの生活や金銭的な相談など、もできる協力関係を築けるように努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束につながるケアはなかったか、毎月のミーティングで振り返りと確認を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながるケアはなかったか、毎月のミーティングで振り返りと確認を行っています。勉強会でも「虐待」を取り上げ、理解を深めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に生活保護などを受給されている方などの家族については、制度を説明する事で、金銭管理などに役立ててもらえるように情報提供に努めています			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不明な点がないか、時間をかけて説明しています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。ご家族様と信頼関係を築くよう努め、意見や要望が言いやすいよう努めています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々の業務内で、職員の意見や提案を聞き取っています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態、休日は職員の希望を聞き取り、できる範囲で反映しています。法人の取り組みで、一定の条件をクリアすると正社員への道が開かれるチャンスもあります。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、職員の経験年数に応じた研修を毎年行っています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での勉強会に参加し、他事業所の管理者同士や職員間の交流もはかっています			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人と家族を交えての面談を必ず行い、困っていることや要望の聞き取りをしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談で、家族からの困りごとや要望等聞き取っています。状況によっては、何度か面談や電話でやり取りし、関係づくりに努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のお話を伺い、早急に対応が必要なケースで、ここでの受け入れが困難な場合は、法人内の別の施設を紹介するなどしております			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で、本人ができることを見つけ、家事を中心に一緒に行って頂くことで、介護する側、される側というだけの関係にならないように配慮しております			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には電話や手紙で状況を伝えています。可能な場合は、利用者にも、家族の近況を伝え直接お話しできる機会を作っています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が依然通っていた教会の方々が来訪したり、来訪される方にはこれからも来ていただけるよう、職員とも顔見知りの関係を築くようにしています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性、相性を把握し、食事の席には配慮しています。思い思いにくつろげるように、ソファの数を多く配置しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に移られたときは、必要な情報を提供しています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や過ごし方を把握し、本人の意向などを確認しています。また、情報を収集したうえで、ミーティングで検討し、ケアプランに反映するように努めています			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族、又は住んでいた施設のケアマネジャーから聞き取り、把握するようにしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を介護記録に記入し、その人に合った過ごし方・その人らしさの把握に努めています			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に、本人と家族からの意向を聞き取り、ミーティングでは職員からの意見を聞いたり、アイデアをケアに取り入れるようにしています			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録では、変化があればペンの色を変えて記入しています。記録は詳しく記入するようにし、全職員が把握しやすい心がけています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊の希望があれば、随時お受けしています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が直接地域の商店とやり取りし、商品を配達してもらうこともあります。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を入居後も継続して通院することができるよう支援しています。また、通院の付き添いは、定期的なものは家族の要望で、ほぼ全て施設側で支援しております			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師の訪問があり、健康相談を行っています。小さな変化や、日々の困りごとを看護師に適宜相談し、連携しています。また、受診時に伝える内容について等のアドバイスをもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報は医療機関へ情報提供を行っています。また、早期退院に向け、お見舞いに行ったときなどに、病院の相談員や看護師と密な連絡を図っています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意向確認書を作成しており、事業所で出来る内容などについて説明をしております		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応のマニュアルを作成しており、すぐ手に取れる場所に設置しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練を年に2回行っています。地域の方々にも回覧板を通して呼びかけ、訓練に参加して頂き、役割確認などをして頂いています。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で利用者の個人情報をやり取りするときは、居室番号で行い、個人を特定出来ないように配慮したり、排泄に関しては、他者に分らない様に、記号でやり取りをする工夫をしています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の疎通が困難な方の場合、家族からの情報や、本人の表情で読み取っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを尊重し、日々の業務内容を柔軟に変更し、対応出来るように調整しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや化粧など、普段していたことを把握し、これからも継続できるように支援しています。		

ふれあいの里 グループホーム 花みずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや後片付けなどを利用者も行っていきます。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの指示にあわせた食事の量や形態で提供しています。また、水分量をチェックしており、1人1人が過不足ないよう配慮しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前の口腔ケアを行っています。その人によってスポンジを使用することもあります。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用しペースを把握する事ように努め、適宜声をかけたり、トイレ誘導する事で、排泄の失敗をなくし、自信をもってもらえる様に努めています			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や牛乳をとったり、水分摂取を促す等、下剤に頼らないで排便が出来るように取り組んでいます			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望にあわせ対応することもあります。排泄の失敗などで汚れや臭いがある方にも入浴を促し、清潔を保てるように支援しています			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の現状に応じた寝具を使用し、居室環境を整え、ゆっくり休めるよう支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬用のゼリーを使用したり、飲みやすい方法での介助を行っています。また、薬のファイルを作成し、職員が把握できるようにしております			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゲームや喫煙、家事に関する役割等、1人1人が何かに関わることができるよう、支援しています。			

ふれあいの里 グループホーム 花みずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子などの方で、外出する機会が少ない時は、玄関から外に出て、空気を吸ったり出来る機会を作ったりしております			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で現金を所持し、通院時に買い物をされる方もいます			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次いだり、職員が代わりにかけたりと、本人の希望に応じて支援しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や乾燥、換気に配慮しています。また、ソファを多く配置する事で、好みの場所で休んだり出来るように配慮しています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その人が落ち着いて過ごせるように、家具やソファの位置、目線に入る景色に配慮しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使い慣れた家具や持ち物を、入居されてからも使ってもらえるよう、本人と家族にはその必要性を伝えています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を使用し、できること・わかることを明確にし、必要な支援を統一し、継続した生活が送れるように努めています。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム 花みずき

作成日：平成 29年 12月 21日

市町村受理日：平成 29年 12月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	活動報告が主体となり、テーマを決めての話し合いは行っていなかったため、活発な意見交換は行われていなかった。	年間でテーマを決め、参加者のかたも活発に意見交換が出来るように資料を準備し会議を開催していく。	運営推進会議で、テーマについても議案とし、参加者からも意見をいただき、年間のテーマを決める。(意見が無い場合は、施設優先で、感染症や災害対策とテーマを挙げていく)	1年
2	35	避難訓練を火災のみを想定し、年2回行っているが、地震、水害、雪害時などのマニュアル作成や職員間での話し合いがされていなかった。	ケア会議などにおいて、職員とも災害について話し合いを行い、課題を明確化し、災害対策マニュアル作成の準備をしていく。	具体的な例をあげ、職員間で話し合う。(入浴中や就寝中に災害があったらどのような避難対応をするのかなど話し合っていきたい)	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。